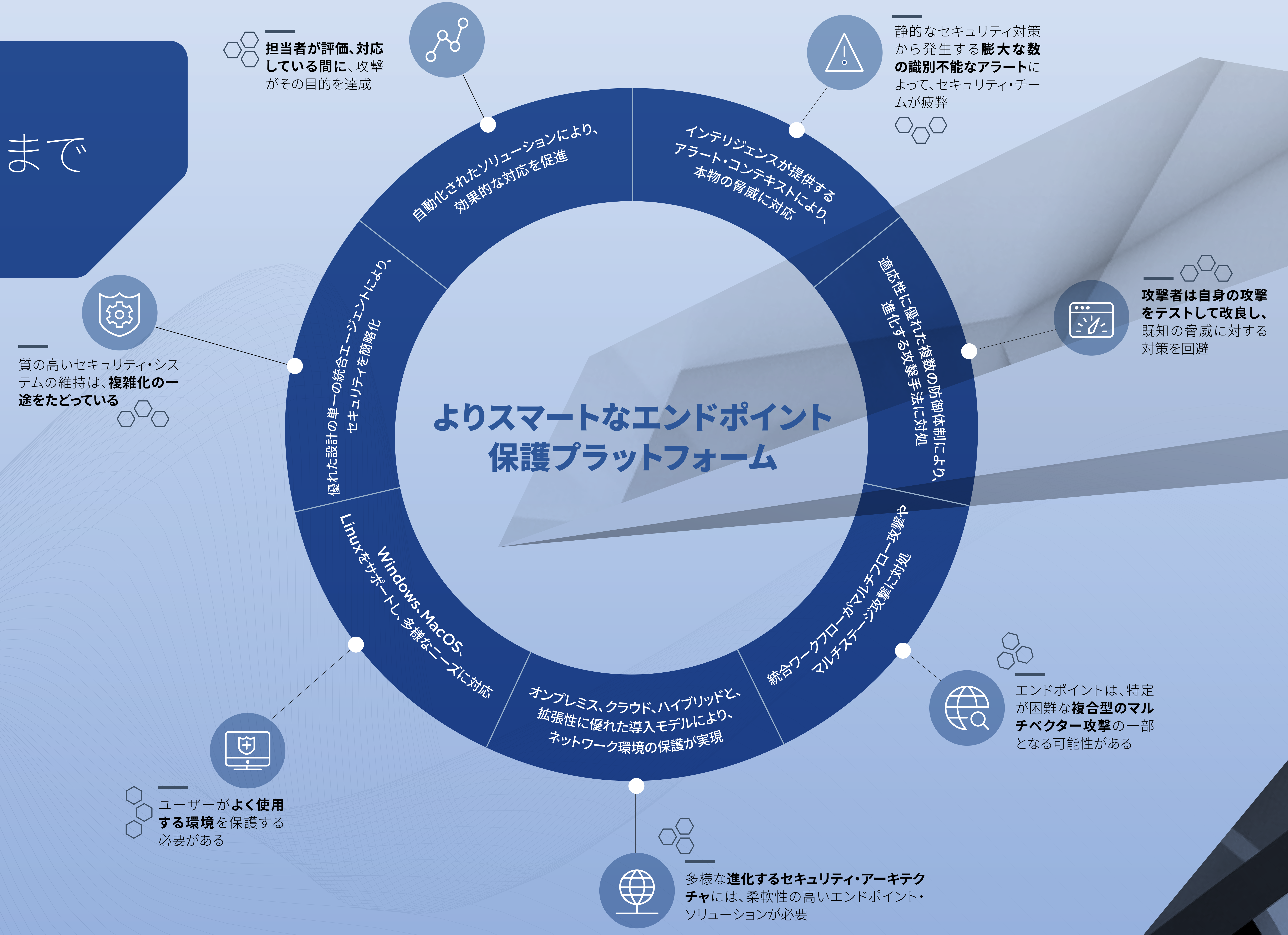
エンドポイント・セキュリティ
防御から復旧まで

包括的なエンドポイント・セキュリティ

エンドポイントが急増し、私物デバイスを業務利用するBYOD（Bring Your Own Device）の考え方が広がるにつれて、組織は急増するセキュリティ・リスクに直面しています。旧式のEPP（エンドポイント・プロテクション・プラットフォーム）は、静的ブロッキング技術を使用して既知脅威を阻止していますが、攻撃がより高度になり、未知脅威が増えるにつれ、静的ブロックの効果はなくなってきました。「次世代のエンドポイント・セキュリティ」と呼ばれる最新のEPPソリューションは、高度なEDR（Endpoint Detection and Response）機能により、これらの脅威に対処できなければなりません。

今こそ新たな脅威やリスクに備えてEPPを準備すべきなのです。



よりスマートなエンドポイント保護プラットフォーム

自動化されたソリューションにより、効果的な対応を促進

インテリジェンスが提供するアラート・コンテキストにより、本物の脅威に対応

適応性に優れた複数の防御体制により、進化する攻撃手法に対処

統合ワークフローがマルチフロー攻撃やマルチステージ攻撃に対処

オンプレミス、クラウド、ハイブリッドと、拡張性に優れた導入モデルにより、ネットワーク環境の保護が実現

Windows、MacOS、Linuxをサポートし、多様なニーズに対応

優れた設計の単一の統合エージェントにより、セキュリティを簡略化

担当者が評価、対応している間に、攻撃がその目的を達成

静的なセキュリティ対策から発生する**膨大な数の識別不能なアラート**によって、セキュリティ・チームが疲弊

攻撃者は自身の攻撃をテストして改良し、既知の脅威に対する対策を回避

エンドポイントは、特定が困難な**複合型のマルチベクター攻撃**の一部となる可能性がある

多様な**進化するセキュリティ・アーキテクチャ**には、柔軟性の高いエンドポイント・ソリューションが必要

ユーザーが**よく使用する環境**を保護する必要がある

質の高いセキュリティ・システムの維持は、**複雑化の一途をたどっている**

凡例

▬	問題
●	ソリューション

✉ Japan@fireeye.com

www.fireeye.jp/jp/endpoint

ファイア・アイ株式会社
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-22 テラススクエア8階 | 03－4577－4401

IG.FPR.JA-JP.52018